**第22課　見本となる指導者ネヘミヤ2018.6.3**

◎ 賛美(一同) : 韓日359番(聖歌411番)、韓日513番(聖歌615番)

◎ 信仰告白(一同) : 使徒信条　◎ 御言葉朗読(一同) : ネヘミヤ2章17～18節

◎ 本文朗読　◎ 主の祈り(一同) : 一番最後に

◎ 今日のマナ　ネヘミヤはエルサレム城壁を再建し、ユダ共同体を安定へと導いた指導者でした。私たち全ては、職分に関係なく、教会とこの世に良い影響力を及ぼす霊的指導者です。ネヘミヤの功績を通して、真の指導者の姿を学んでいきたいと思います。

**1.民を愛したネヘミヤ**ネヘミヤは他国の地ペルシヤで、王の献酌官をして、成功的な人生を送っていました。そのような彼に、ユダの地にいる同族たちが、大きな苦境に置かれており、エルサレム聖殿は攻撃を受けているという悲報が聞こえてきました。

“すると、彼らは私に答えた。「あの州の捕囚からのがれて生き残った残りの者たちは、非常な困難の中にあり、またそしりを受けています。そのうえ、エルサレムの城壁はくずされ、その門は火で焼き払われたままです。」”(ネヘミヤ1:3) この話を聞いてから、ネヘミヤは大きく傷心し、神様の前に断食しながら祈りました(ネヘミヤ1:4)。ネヘミヤ1章4～11節に出てくる彼の祈りには、同族ユダの民に向かう彼の愛、イスラエルの回復に対する切なる願い、そして御言葉に従順する者に恵みを施される神様に対する堅い信頼が込められています。祈りの後、ネヘミヤはアルタシャスタ王に自分の悩みを話し、彼からエルサレムに行って城壁を再建することを許可されました(ネヘミヤ2:4～8)。そしてペルシヤでの安楽な生活を後ろにし、城壁再建のためエルサレムへと向かいました。

私たちは、同族の苦しみと聖殿の毀損に心を痛め、これを解決するために安定的な生活を明け渡して、大胆に道を進んでいったネヘミヤの姿を見ながら、真の指導者は共同体を愛する心から始まるということを知ることが出来ます。何よりも指導者は、共同体を愛し、彼らに関心を傾け、彼らのために祈る人です。そしてネヘミヤのように、言葉だけでなく行いによって、共同体に仕える人がまさに、真の指導者です。神様が建てられた教会と、兄弟姉妹を愛するようにして下さいと祈りましょう。そして、言葉だけでなく、行いによって愛を実践しましょう。“子どもたちよ。私たちは、ことばや口先だけで愛することをせず、行ないと真実をもって愛そうではありませんか。”(Ⅰヨハネ3:18) 民族の痛みに共感し、彼らに仕えるために立ち上がったネヘミヤの献身をもう一度覚えましょう。

**2. 民たちと連合して働いたネヘミヤ**エルサレムに到着したネヘミヤは、燃えてしまった城門と崩れてしまった城壁の惨状を見て、ユダの指導者たちと民に、もう一度城壁を建築することを強く励ましました。“それから、私は彼らに言った。「あなたがたは、私たちの当面している困難を見ている。エルサレムは廃墟となり、その門は火で焼き払われたままである。さあ、エルサレムの城壁を建て直し、もうこれ以上そしりを受けないようにしよう。」そして、私に恵みを下さった私の神の御手のことと、また、王が私に話したことばを、彼らに告げた。そこで彼らは、「さあ、再建に取りかかろう。」と言って、この良い仕事に着手した。”(ネヘミヤ2:17∼18)

ネヘミヤの確信に満ちた動機付与にユダの民は心を開き、心を合わせて城壁再建工事に積極的に賛同しました。聖書は多くの民が昼には工事をし、夜には見張り人を立てて、城壁の再建に熱心を尽くしたと語っています(ネヘミヤ4:21∼23)。ついに、ネヘミヤの指導力の下で、‘一つとなった’ユダの民は、52日間で城壁を再建するに至ります(ネヘミヤ6:15)。

これほどに短い期間で城壁を再建するには、‘民が一つとなること’を導いたネヘミヤの指導力が大きな役割をしました。ネヘミヤは城壁の再建は決して一人の力で成すことは出来ず、自分のための事ではなく神様の栄光と民たちのための働きであることを良く知っていました。なので、彼は民を励まし、良い働きに賛同するように導き、彼らと一つになって働き、働きの楽しさを分かち合ったのです。

神様の働きをするにあたって、何よりも重要なことは連合です。連合せずには、神様の事を成就することは出来ず、もしもそれが成されたとしても、多くの傷を残す可能性が大きくなります。したがって、指導者は何よりも共同体が一つになって働くことが出来るようにしなくてはいけません。一つとなった共同体が健康な共同体であり、大きな事を成すことができます。ネヘミヤのように一つとなることを図る指導者として下さいと祈らなくてはいけません。

**3. 仕えの模範を見せたネヘミヤ**ネヘミヤの立派な指導力は、城壁再建以外に総督としてユダを導く時にも現れました。当時、物質と地位のない平凡なユダの民は、様々な苦しみにあっていました。子供たちを食べさせる食糧も十分でなく、多くに税金を払わなくてはならずに、お金持ちのユダの貴族や長たちにお金を借りることも多くありました(ネヘミヤ5:1∼5)。しかし、より大きな問題は、このような状況の中でもユダの指導者達は彼らを助けるどころか高い利子をつけていたということでした (ネヘミヤ5:6∼7)。これを見たネヘミヤは大きく怒り、指導者層の者たちに叱り、二度と利子をもらってはならず、貸したものを免除してやるように命じました。

ネヘミヤの立派さはこれで終わりませんでした。ユダの指導者層たちにだけ弱い民に仕えるように命じたのではなく、自分からこれを積極的に実践しました。ネヘミヤは12年間の初総督任期の間、民から総督の手当てを受けず、彼の家族もまた手当てを受けず、農地を買い上げたりもしませんでした。かわりに、彼と家族たちは城壁の工事に力を尽くし、そのような仕事を嫌がったりしませんでした(ネヘミヤ5:14∼16)。

このようにネヘミヤは、民たちに仕えの価値を植え付け、自分から仕えの模範を見せました。真の指導者は君臨するものではなく仕える者です。苦しみを受けている人々に仕えるように共同体を導き、まず先に仕えを実践する人がまさに、神様の喜ばれる指導者なのです。 “人の子が来たのが、仕えられるためではなく、かえって仕えるためであり、また、多くの人のための、贖いの代価として、自分のいのちを与えるためであるのと同じです。」”(マタイ20:28)というイエス様の御言葉を覚え、真の指導者の美徳とは何であるのか考えてみましょう。

◎ マナの要約

<民を愛したネヘミヤ>

1. エルサレム聖殿が燃えたという悲報を聞いたネヘミヤは王に、エルサレムへ行くことを許されました。

2. ネヘミヤは同族を愛したゆえに、ペルシヤでの安定的な生活を捨てエルサレムへと向かいました。

3. 行いと真実さによって兄弟姉妹、隣人を愛する人が真の指導者です。

<民たちと連合して働いたネヘミヤ>

1. ネヘミヤはユダの民たちに城壁の工事を勧め励まし、彼らが一つになるように導きました。

2. ネヘミヤの指導力の下で一つとなったユダの民は城壁工事を52日で終えることが出来ました。

3. 共同体が一つになることを図る人が真の指導者です。

<仕えの模範を見せたネヘミヤ>

1. ネヘミヤはユダの指導者たちに民たちから搾取するのではなく仕えるようにと命じました。

2. 何よりもネヘミヤは総督の手当てを受けないなどの仕えの模範を見せました。

3. 仕えられようとせずに、仕える人が真の指導者です。

◎ 日々のマナ

<隣の人に挨拶>

1.兄弟姉妹と隣人を愛しましょう。2. 全ての事を連合して行いましょう。3. 仕える者になりましょう。

<祈り>

1. 兄弟姉妹、隣人を愛するようにして下さいと祈りましょう。

2. 全ての事を連合して行う人にして下さいと祈りましょう。

3. 仕えられようとする人でなく、仕える人にして下さいと祈りましょう。.

<とりなしの祈り>隣の人と祈りの課題を分かち合い祈りましょう。